

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費	
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%	
中事業	03	主要な取り組み	発達支援は、早期発見、早期医療								
小事業	04	発達支援事業		目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	集団適応が難しい子、学習の定着や文字の読み書きが苦手な子が増加している。 美濃加茂市の小中学校では、通常学級にも発達障がいのある児童生徒が約6% 在籍しており、家庭や幼保こども園・学校など生活の中で困っている子ども本人、 保護者、先生がいる。				
	事業目的	(1)対象 ・0歳～成人期の困り感を持つ児(者)とその保護者、またその関係機関(関係幼 保小中高等学校) (2)目的 ・乳幼児期から児童学童期の相談支援体制の確立と乳幼児からの一貫した支援体制 の確立				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」具現に向けて、特に困り感を 持つ子どもたちとその保護者を支援するためのものである。 ・9ヵ月～10ヵ月あそびの教室(健康課事業への支援1回/月)による発達支援 対象児スクリーニング及び育児支援 ・公私立保育園公開保育参加(全クラス)による発達支援対象児早期発見と支援内 容検討、発達相談・巡回相談対象児の見守り支援 ・あじさい発達相談(随時)による保護者対象の発達相談と学校との連携及び、支 援内容の検討、保護者の障がい理解 ・巡回発達相談(幼保1回/月小中1回/学期)による支援対象児の通う園や学校 を対象とした相談事業				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,570	1,157	1,417	1,594	
	決算額	900	563	1,164		
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	2,015 / 0				



アウト プ ット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	あじさい発達相談件数 巡回発達相談件数 夏季あじ さい子育て相談人数 臨床心理士に よる知能検査件数の合計	目標値	250	250	250	250	250
		実績値	210	306	370		



アウト カ ム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	各相談事業での支援対象児スク リーニング人数と支援対象件数	目標値	250	250	250	250	250
		実績値	210	306	370		

実
績



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	保健センターでの健診、幼保こども園や学校への定期的な相談、 リーフレットやホームページでの発信から、相談窓口が周知されて きたため、相談件数が増加した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	保護者からの相談、園や学校からの相談、健診からの相談など、相談を受 けた子が支援対象児となっているため、増加している。
	実績からR05年度 の事業の方向性	リーフレット配布で発達窓口があることを周知したり、定期的な相談の場 を設けたりすることを引き続き行うことで、困り感のある子や保護者、先 生などが一人で抱え込むことがないように支援体制を整え、見守っていく 。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費	
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%	
中事業	03	主要な取り組み	発達支援は、早期発見、早期医療								
小事業	05	教育支援事業		目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	集団で適応できない、細かい作業がうまくできない、集中が続かない、学習の定着が難しいなど、支援が必要な児童生徒が増加している。 学校の一斉指導の中だけでなく、一人一人の発達に合わせた学びの場や個別での支援を行うために、支援学級や通級指導教室という環境や適した教材・教具を整備することが大切である。				
	事業目的	(1) 対象 ・教育支援委員 ・市特別支援連携協議会員 ・市内の小中学校の特別支援学級、特別支援等通級教室 (2) 目的 円滑な教育支援の実施や特別支援教育の充実の為				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」具現に向けて、困り感を持つ子どもに対して、よりよい教育環境の下で教育が受けられるよう適切な判定を行ったり、学校生活・学習環境の充実を図るものである。 ・児童一人一人の障害の状況に応じた教育支援の実施 ・新設、増級する特別支援学級、特別支援通級教室への備品及び学習教材の購入 ・各特別支援学級、特別支援等通級教室への備品及び学習教材の追加購入				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	183	1,435	1,023	1,290	
	決算額	83	1,384	1,017		
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	242 / 0				



アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	教育支援委員会の開催（年3回） と判定部会の開催（年8回）	目標値	11	11	11	11	11
		実績値	11	11	11		



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができるよう環境が整備された学級（クラス）	目標値	41	42	43	60	60
		実績値	41	42	59		

実
績

効
果



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	定められている判定会議を前年度から変更なく開催することができたため、現状維持となっている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	それぞれの児童生徒に適している学びの場を判定し、特性・発達・学年に応じて学級を設定したことで、前年度より増加した。 支援を必要とする児童生徒が増加しているため、学級数も増加した。 目標値を達成したため、R5年度以降の目標値を上方修正した。
	実績からR05年度の 事業の方向性	教育支援委員会・特別支援連携協議会と判定部会の開催を引き続き行い、一人一人の発達に合わせた学びの場を協議していく。また、個別の支援に合った教材教具の購入や環境整備を行う。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援								
小事業	06	科学のふしぎ解決学習推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	フロム0歳プラン2の「学校が楽しい」の具現に向け、小中学生の段階から自然の不思議に興味・関心をもち生きる力の素地を育成する必要がある。 若者の理科離れを防ぐためにも、豊かな体験学習は必須である。				
	事業目的	(1) 対象 各小中学校児童生徒、保護者 (2) 目的 ・ 普段、学校の授業では体験できない実験や専門家の話を聞き、児童生徒の科学への興味関心を高める。 ・ 自ら解決しようとする探究心を高め、解決方法を学ばせる。 ・ より発展的な学習や他領域への学習へと学びの意欲をつなぐ。				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」の具現に向けて、自然・科学分野での体験学習等を意図的に行い、児童生徒が一層自然の不思議に興味・関心を持ち、生きる力の素地をつくるためのものである。 ・ 学校の授業では体験できない実験や専門家による講演会 ・ 校外での科学分野の体験活動				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,304	8,332	8,177	4,590	
	決算額	3,472	6,182	7,504		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	40 / 10				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	本事業の補助金による活動実施率 （対予算額：％）	目標値	100	100	100		
		実績値	70	90	100		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	本事業の補助金のねらいを明確にした活動率（％）	目標値	100	100	100		
		実績値	70	80	100		



実
績

実績	・ 小学校9校で本事業の補助金を利用した活動を実施した ・ コロナ禍の影響による活動内容の変更はあったが、各学校におけるサイエンス学習、名古屋市科学館での学習、ヤギさんふれあい授業が、実施できた。
効果	各学校ごとに豊かな体験学習を計画・実施している。 各種の体験学習は、子供の「学校が楽しい」という意識につながっている。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・ 未達成要因	コロナ禍においても学校での教育活動は可能な限り実施している。学校を離れて行う体験学習についても肅々と実施することができた。 当事業の成果をより正確に測る指標にするためR5年度から活動指標・KPIを変更する。 活動指標＝事業を実施している小中学校数 KPI＝生活習慣アンケート「学校の授業は、楽しいですか」当てはまる、どちらかと言えば当てはまると答えた児童生徒の割合
K P I 分析 目標値の達成 ・ 未達成要因	各学校ごとに補助金を使いこなすことができた。 当事業の成果をより正確に測る指標にするためR5年度から活動指標・KPIを変更する。 活動指標＝事業を実施している小中学校数 KPI＝生活習慣アンケート「学校の授業は、楽しいですか」当てはまる、どちらかと言えば当てはまると答えた児童生徒の割合
実績からR05年度の事業の方向性	今後もフロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」の具現に向けて、自然・科学分野での体験学習等を意図的に行い、児童生徒が一層自然の不思議に興味・関心を持ち、生きる力の素地の育成に努める。 R4年度から西中学校で事業を実施したが、東中学校ではまだ実施できていないため実施へ向けて動いていく。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計						事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費		02	事務局費	
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					目標値	500人 40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援									
小事業	07	フロム0歳プラン推進事業		目標年度	令和6年度							

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	美濃加茂市の教育における目指す姿には、「自己にきびしく、人にやさしい、心身ともにたくましい子ども」の育成があるが、子ども達が地域の良さを学ぶことで地域を愛し地域人として育つための地盤づくりは欠かせない。				
	事業目的	(1) 対象 全児童生徒 (2) 目的 フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」の具現に向けて、各種計画に基づき、各学校がそれぞれ特色ある教育活動を推進することによって、学校教育の充実を図る。				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」の具現に向けて、各学校がそれぞれ特色ある教育活動を推進することによって、学校教育の充実を図るものである。 ・F - 0 特色ある学校づくり補助金 ・学校教育の方針と重点の作成等				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	11,075 10,490	11,472 11,299	11,186 11,128	11,224	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	50 / 5				

アウト プット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	本事業の補助金による活動実施率 (対予算額：%)	目標値	100	100	100	100
		実績値	80	100	100	

アウト カム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	本事業の補助金のねらいを明確に活動の実施状況 (評価者(教育委員)のB以上の評価率%)	目標値	100	100	100	100
		実績値	80	90	90	



実
績

実 績	・あじさい賞表彰（科学社会科作品、児童会活動等） ・特色ある学校づくり補助金交付 小中学校 11校で特色ある学校づくりを実施 （坪内逍遥の学習、学力向上の取組、一輪車活動 等）
効 果	フロム0歳プラン2の「学校が楽しい！」の具現に向けて、各学校がそれぞれ地域を踏まえての特色ある教育活動を推進することによって、学校教育の充実を図ることができる。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	学校の特色づくりの活動を中心として、一部活動内容の変更をしながらも、地域とのつながりを築きながらの活動を実施し、目標値を達成できた。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	地域との連携を図りながら、学校の特色づくりのための活動を行ってきたが、人とのつながりを築くことにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響があり、活動制限があったため。
実績からR05年度の事業の方向性	令和5年度は新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、特色ある活動について目的を再確認して活動を推進する。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費		02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援								
小事業	08	学外講師派遣推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	各学校が特色のある学校づくりを実施するためには、地域の人材の協力は欠かせない。また、学校では指導しきれないことも、地域の専門家等を生かすことで、子ども達が地域の良さを知り、地域を学びながら成長していくことが学校教育の充実には必要不可欠と考える。				
	事業目的	(1) 対象 市内小中児童生徒 (2) 目的 「開かれた学校」づくり、臨場感のある学習や活動のために外部の講師・指導者を派遣				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の3本柱の1つ「面による指導」を充実し、外部人材を十分に活用して学校教育の充実を図るものである。 ・学習や体験活動、部活動に対する、外部人材の教育力の活用				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
		予算額	1,248	1,200	1,200	840
		決算額	843	992	1,120	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	40 / 10				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	学校教育活動への学外講師派遣率 (対予算：%)	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	70	85	90		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	学外講師による学習や活動の児童生徒の満足度（%）	目標値	95	95	95	95	100
		実績値	90	90	93.1		



実 績	実 績	小学校 ・米づくり指導（計32単位） ・歯科学習・指導（計42単位） ・音楽・合唱指導（計22単位）等 中学校 ・部活指導（剣道、バドミントン、バレーボール等） 各学校で6回実施
	効 果	地域の人材を十分に活用して、「開かれた学校」づくり、臨場感のある学習や活動のために外部の講師・指導者を招き、学校教育の充実を図っている。このことにより、子ども達はより専門的な立場にある方々からの効果的な教育を受けることができた。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	新型コロナウイルスにより、本来実施予定であった活動が一部実施できなかったことによる派遣率の減少のため。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	子ども達が期待していた地域の人材を招いての活動において、新型コロナウイルスの影響により活動制限があったため。
	実績からR05年度の 事業の方向性	中学校部活動の外部指導者は別の事業に移行していくため減額とするが、文科系の部活動への予算は確保しておく。小学校への事業は本年度と同様に実施していく。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課	
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）				目標値	500人
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					40.0%
小事業	09	英語教育推進事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	在留外国人、外国籍児童が年々増加している状況の下で、本市は多文化共生事業を推進しているが、小学校から異国の文化を理解し尊重する態度の育成すること、小学校及び中学校の英語教育の充実を図ると共に、児童生徒のコミュニケーション能力を高め、外国語の背景にある文化に対する理解を深めることが必要である。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 市内小中学校児童生徒 （２）目的（具体的な事業のやり方、手順） ・コミュニケーション能力の育成し、グローバルに活躍する健やかな人材の育成 ・英語や外国文化に対する興味関心の喚起 ・外国の文化や習慣等に積極的に触れようとする態度の育成 ・英語検定3級程度の合格者が増加				
	事業概要	本事業は、美濃加茂市教育振興基本計画「学校が楽しい！」具現に向けて、児童生徒が生き生きとコミュニケーションを図り、能力を高めるための事業である。 ・小学校の外国語及び外国語活動に伴う教材の整備 ・小学校5・6年生外国語におけるネイティブスピーカーによる英語指導 ・小学校1年～4年生外国語活動におけるEAS（イングリッシュアクティビティサポーター）による英語指導 ・中学校英語授業におけるネイティブスピーカーによる英語指導 ・中学校3年生における英検ⅠＢＡの実施				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	22,058	21,560	21,470	21,992	
	決算額	21,473	21,504	21,429		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	70 / 760				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	英語の学習が楽しいと回答した中学3年生の割合（％）	目標値	76	50	55		
		実績値	59	49	44		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	英検ⅠＢＡ3級程度の生徒の割合（％）	目標値	47	48	49	50	50
		実績値	49	36	51		



実 績	実 績	・中学校3年生における英語検定（英検ⅠＢＡ）を実施した英検3級程以上は約51%である。 ・小学校にはEAS（イングリッシュアクティビティサポーター：英語活動支援員）を6名配置し、年間約160日の勤務の中で市内小学校の授業支援を行っている。 ・2名のALTをすべての小学校5・6年生に、週1回配置し、ネイティブスピーカーによる英語指導を行った。
	効 果	・外国語によるコミュニケーション能力の育成 ・外国語の背景にある文化に対する関心・理解 ・中学校3年生における英検3級程度の力



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	英語に限らず、勉強に対する意欲の低下が関係している。令和4年度実施のアンケートでは、勉強は好きと答えた生徒の割合は36.8%となっている。 中学3年生に限らず英語が好きと言える授業とするため、R5年度から活動指標を生徒が英語を好きといえる授業づくり（「英語が好き」と回答する生徒の割合％）に変更する。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	ネイティブスピーカーによる英語指導だけでなく、日々の授業の中で、外国語による聞く、読む、話す、書くことの言語活動を通して、考えを理解したり表現したりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する授業づくりを目指し取り組んだことで目標値を達成できた。
	実績からR05年度の事業の方向性	英語に対して意欲的に取り組むことが学力の向上につながる。そこで、「英語を好き」と回答できる生徒を増やしていくことが大切。英語教育推進委員会等によって「生徒が英語を好きといえる授業づくり」を目指し、授業の在り方、指導方法、教材の工夫改善などを検討していく。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費		03	教育センター費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援								
小事業	10	教育相談・適応指導教室推進事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	近年増加傾向にあり、複雑化・多様化する不登校児童生徒に対応した「あじさい教室」（適応指導教室）の工夫ある運営や、指導にあたるスタッフの指導力の向上、教育カウンセラーの活用にも努める必要がある。				
	事業目的	（１）対象 不登校児童生徒学校での集団生活への不適応児童生徒保護者及び学校職員 （２）目的 社会適応能力の回復、自己肯定感の高まり、学校復帰後の学力の向上				
	事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2「学校が楽しい！」具現に向けて、不登校児童生徒の学校復帰に向けた教育相談・適応指導の充実を図るものである。 ・学校での集団生活への不適応児童生徒に対する教育相談・適応指導 ・自主性、社会性を育む体験活動の実践 ・学習意欲を喚起する学習指導				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	333 309	330 232	330 270	419	
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		1,794 / 798				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	不登校児童生徒の「あじさい教室」参加者数（相談・見学者含む）人	目標値	80	80	70		
		実績値	70	55	63		

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	「あじさい教室」通室を通して学校復帰（含む高校進学）した児童生徒の割合（％）	目標値	70	70	70	70	70
		実績値	53	53	56		



実 績	実 績	・保護者との懇談（年2回）、関係学校の教育相談担当との打ち合わせ（月1回） ・在籍児童生徒18名、学校復帰5名、高校進学者5名 ・市適応指導教室「あじさい教室」での活動として外部講師を招いた「音楽を楽しむ会」「絵画を楽しむ会」を実施した。また「里山体験」「遠足」「野菜作り」「調理」を実施。季節行事として「七夕」「ハロウィン」「餅つき・干し柿」などを実施。 ・学習指導については、タブレット端末や学習プリントの活用を進め、個別の学習を推進できた。
	効 果	「あじさい教室」と学校との連携の充実、通室に向けた流れの周知、スタッフの指導力の向上、教育相談研修の充実を図ることができた。通室児童生徒への励ましを進め、学校復帰できたり、1回でも学校に登校できたり、曜日を決めて登校したりできる児童生徒が見られた。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	学校の教育相談体制への働きかけが不十分であった。（委員会設置依頼、ケース会へのアドバイス、研修会の実施の支援、あじさい教室の見学の働きかけなどの点が考えられる。） ただ、不登校児童生徒によっては、見学後の通室につながらないケースや見学まで足が向かないケースもあり、目標値に達しなかったとも考えられる。 活動指標とKPIが共に成果指標となっていたため、R5年度以降活動指標を変更する。 活動指標＝不登校解消に向けた「あじさい教室」通室を含む相談（見学含む）件数（人）
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	通室している児童生徒の様子は、家庭環境、親子関係、兄弟関係、本人の特性等、複雑多様であり、不安や心配事、周囲との関わり方等にも十分に配慮した指導・支援や緻密な学校との連携が必要である。 そのため、学校復帰まで至る児童生徒がいる反面、多くが年度をまたいだ通室やゼロに戻って再スタートするなど、個人差が大きい。
	実績からR05年度の事業の方向性	学校と教育センターとの連携を図り、不登校や不適応状況にある児童生徒の情報の共有を図るとともに、教育相談活動の充実を図り、あじさい教室や学校の相談室への通室を促す支援を継続する。また、「あじさい教室」に通室する児童生徒の学習支援や自己肯定感を高めることができる体験活動や運営の充実を図る。 さらに困り感を持つ保護者へのサポート体制も手厚くできるよう学校での教育相談業務や教育センターの活動の充実を図る。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課	
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）				目標値	500人
中事業	02	主要な取り組み	チャレンジ、自分で学べる教育支援		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					40.0%
小事業	11	情報教育推進事業		目標年度	令和6年度					

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	誰にとっても、職業生活、学校での学習、家庭生活など、あらゆる活動においてコンピュータなどの情報機器やサービスと、それらによってもたらされる情報とを適切に選択・活用して問題を解決していくことが不可欠な社会が到来しつつある。美濃加茂市の児童生徒においても、この情報社会の中で心身ともに健やかに生きる力を身に付ける必要があり、学校現場では、校務支援・授業改革・情報セキュリティ向上など校務の効率化を推進する必要がある。					
事業目的	(1) 対象 市内小中学校の児童生徒及び教職員 (2) 目的 ・児童生徒が情報リテラシーを身に付けるとともに情報社会の中で心身ともに健やかに生きる力を身に付ける。 ・校務支援・授業改革・情報セキュリティ向上を図るとともに校務の効率化を推進する。					
事業概要	本事業は、フロム0歳プラン2の3本柱の一つである「学校の改革・改善」分野で情報機器やソフトウェアを選定・配置し、情報機器を用いた授業を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を高めることがねらいである。 ・文部科学省が推進するGIGA構想によって一人一台端末が整備され、また通信の高速化によって可能となった日常的なICT教育の中で「わかる・できる・楽しい授業」づくりを推進する。 ・ICT教育を推進する上で必要なデジタル教材およびソフトウェアの充実を図る。 ・プログラミング教育教材を整備して小学校プログラミング教育を推進する。					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	393,149	44,437	49,794	61,675	
	決算額	389,567	44,229	48,327		
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		1,725 /			675	

アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	ICT活用にかかわる研修への教職 員の参加率%	目標値	85	87	89	90	92
		実績値	85	100	100		

アウトカム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	児童生徒がタブレットを使って毎日学習する活用頻度の割合(%)	目標値		50	50	50	50
		実績値		23	33		



実
績

実 績	・統合型校務支援システム「Te - Comp@ss」の導入 ・授業支援ソフト「SKYMENU Cloud」の購入 ・学習支援ソフト「ラインズ eライブラリ」の購入 ・ICT支援（業者による） 市内小中学校6時間ずつ 内容：授業支援ソフト・学習支援ソフトの活用に係る職員研修、授業用教材研究支援
効 果	ICTの活用に関わって職員研修を行い、教職員の使用の頻度は上がっている。児童生徒が毎日使う頻度については、小学校で高くなっている。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	タブレットやソフトウェアの具体的な操作方法や活用の仕方などを研修としている。児童生徒へ還元できるという教職員の意識の高さも要因である。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	児童生徒がタブレットを使用する機会はインターネットを用いた調べ学習や自分の考えをまとめる時が中心となっている。また教師が授業支援ソフトを活用するのも、児童生徒がタブレットを活用する際となっており、使用しやすい教科に偏りがあるため、毎日の活用には至っていない。
実績からR05年度の事業の方向性	業者によるICT支援を活用しながら、職員研修を行い、先生たちにタブレット活用のノウハウを身に付けてもらえるようにする。また、各校にいる情報教育主任と情報教育委員会を開催し、タブレットの具体的な活用について実践事例の交流を行う。これらにより、児童生徒が現在の活用以外に、学習支援ソフトや学習者用デジタル教科書の使用が増えるようにする。

令和４年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	21300000	教育委員事 学校教育課		
大事業	C1	6つのまちづくり宣言	多文化共生	款項目	09	教育費	01	教育総務費	02	事務局費	
		目指す姿	みんなで一歩を踏み出そう！	K P I	外国人市民の高校進学率				目標値	97.6%	
中事業	02	主要な取り組み	外国人児童生徒の教育支援		多文化共生のまちづくりが進んでいると感じる人の割合					50.0%	
小事業	03	のぞみ教室推進事業（定住）		目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	外国人児童生徒が日本語や日本文化などがほとんど理解できないまま小中学校に通うことで、学校に適應することが難しく不就学児につながる状況にあった。そのため、外国人児童生徒の増加に伴う圏域小中学校の受け入れ体制の整備および、初期適應指導教室「のぞみ教室」を開設し、初期指導及び日本語指導の充実を図ってきた。 ・外国人児童生徒の増加 ・外国人の定住化、散在化				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 日本語がほとんど理解できない学齡期の外国人児童生徒 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるか） ・日本の学校生活へスムーズに適應できる。 ・サバイバル日本語を習得ができ、基礎的・基本的な学力を身に付けることができる。				
	事業概要	日本の学校生活へ適應し、小中学校へ元気に就学できるように、学校生活に必要な日本語や日本の文化を教える。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	10,318	5,004	5,004	7,955	
	決算額	9,094	4,873	4,833		
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	1,725 / 836				



アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	のぞみ教室で３～６か月程度で就学できる割合％	目標値	95	95	95	95
		実績値	68	76		



アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	のぞみ教室に在籍した児童生徒が小学校・中学校に就学後、年度末まで在籍した割合（帰国・転校を除く）	目標値	90	90	90	90
		実績値	100	100		

実
績

効
果



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	令和４年度は７０名の児童生徒が利用した。 美濃加茂市民 ・フィリピン３６名 ・バキスタン１名 ・ブラジル２６名 ・ペルー１名 ・中国２名 ・日本１名 ・フィリピン１名 ・ネパール１名 ・ネパール１名
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	退室をした５１名の児童生徒の内、通室６か月以内が３９名、６か月以上が１２名である。内訳は以下の通りである。 ・小学生低学年２７名（６か月以内２４名 ６か月以上３名） ・小学生高学年 ９名（６か月以内 ８名 ６か月以上１名） ・中学生 １５名（６か月以内 ７名 ６か月以上８名） 年齢が高いほど退室までの時間がかかる傾向が見られる。これは、小学生に比べ、中学生の学習内容の難易度が高いこと、日常生活の中で日本語での会話する機会が小学生ほど積極的でないことが理由として考えられる。
	実績からR05年度の事業の方向性	在籍学校での支援は言うまでもないが、在籍学校へ戻った時の困り感が児童生徒に少ないことが理由にあげられる。それは、のぞみ教室でのサバイバル日本語を習得させる指導や、日本の学校の文化や生活のルールが身に付くように繰り返し行う指導が大きな要因だと考える。 ・令和5年度も継続して、のぞみ教室に通う児童生徒が在籍校へ通学するために必要な基本的な学校生活の習慣を身に付けたり、基礎的な日本語・計算ができるように指導していく。 ・のぞみ教室への通級申し込みの際、教育委員会担当で保護者の願いをヒアリングし、のぞみ教室でできることやできないことを説明していく。